

研 究 成 果 報 告 書

(ふりがな) いなぎ りゅうげん

氏 名 稲木 龍元

現 職 (所属名、職名等) 沼津特別支援学校 教諭

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名 平成13年 障害児教育専攻

1 はじめに

本研究では iPad の導入と活用について、N 特別支援学校の取り組みをまとめた。

2 導入までの諸問題

(1) Apple アカウントの取得

ios 端末は Apple アカウントの取得が必要であるが、その際にメールアドレスも必要となる。県教委に申請し、Google のアカウントを取得し、それを基に Apple のアカウントも取得した。

(2) 無料・有料アプリケーション

無料アプリケーション (以下、無料アプリ) 取得の際にはネットワーク設定の変更、手続きの確認など、納入業者でも分からないことがあり、県教委と確認しながら進めた。

有料アプリケーション (以下、有料アプリ) に関しては、ios 端末では app store での itunes カード、いわゆるプリペイドカードの扱いであり、S 県の規定として有料アプリは購入できなかった。しかし、規定が変わり、有料アプリであった「iMovie」などが購入可能になった。

(3) 管理

各学年、計 12 台を配備した。各教室などで自由に扱うが、パスワードの設定、生徒同士の貸し借りはさせないこと、最終的な管理場所は鍵のかかる場所にするなど管理方法を定めた。

3 活用例

活用例としては、一斉学習、個別学習、協働学習に大別できる。

(1) 一斉学習

① 拡大提示

書画カメラよりも簡便に利用が可能であることから、プリントや書籍など、テレビにつなげ、拡大提示した。また、ipad で撮影した動画や写真を拡大提示し、デジタルカメラやビデオカメラの代わりとしても利用した。

② 歯磨き指導

決められた手順で時間をかけて行うことで、歯を磨くことができるよう ipad による有料アプリ「5分はみがき」を拡大提示し、クラスで一斉指導する実践を行った。それまでは集中して行うことや口内の様々な箇所を磨くことが難しいこともあったが、ipad による提示を行うことで改善されるようになった。

(2) 個別学習

① 筆順確認

「漢字で名前を書こう」という活動で、漢字を指導する際に「筆順辞典」や「筆順 Q」などの筆順を確認できるアプリケーション (以下、筆順アプリ) を用いた。児童が自ら 1 画ずつ確認しながら、

書き進めることができた。

②買い物学習

算数の授業で、買い物学習のためのアプリ「レジスタディ」を用いて実践を行った。利点としては商品画像として取り込んだり、金額の設定も柔軟にできたりする。また、金種が視覚的に分かりやすいため、児童が店員役になり、児童同士でやりとりし、買い物学習をすることができた。

③自立活動 手指の模倣

自立活動にて、手指の動きを模倣する学習を行った。初めは教師が声をかけながら、手指の動きを模倣させた。回数を重ねると、教師の声かけがなくても教師の指を見て動かすことができた。そこで、iPad で教師の見本を撮影し、児童がそれを見て模倣するようにした。その結果、iPad を見て模倣することもできるようになった。

④簡単な日記作成

書くことがかなり苦手な生徒に対し、継続して日記を書くこと、授業への参加意欲の向上を目的にiPad を利用した日記指導を行った。家庭で一言日記を書き、翌日、学校にて写真日記アプリで文字と写真を入れた。iPad を用いることで、習慣として字を書くようになってきたり、字への興味が広がったりした。また、文字を打ち込んだ後、漢字変換をさせることで、読むことができる漢字も増えてきた。

(3) 協働学習

卒業に向け、記念のDVD を制作する活動では、有料アプリのiMovie を使い、生徒が共同制作・編集

集の一部を行った。簡便に操作可能であることから、意欲的に活動に取り組んだ。

4 今後の課題

iPad の活用には、発達段階、障害の程度、教科・領域などを考慮し、指導や教材作成に生かしていきたい。また、学校全体で活用事例を蓄積し共有していきたい。